

県立高等学校の今後の在り方に関するアンケート
(奈良県PTA協議会員対象)
集約結果

- 実施年月日
平成30年1月20日(土)
(奈良県PTA協議会研究大会時に実施)
- 対象者
県PTA協議会会員
- 回答数
199名(当日参加者345名、回答率57.7%)
- 質問内容
 - (1) 高校進学時の進路選択について
 - (2) 学校選択に応える高校づくりについて
 - (3) 高校に関する情報入手について
 - (4) 専門高校の進学対応について以上4問

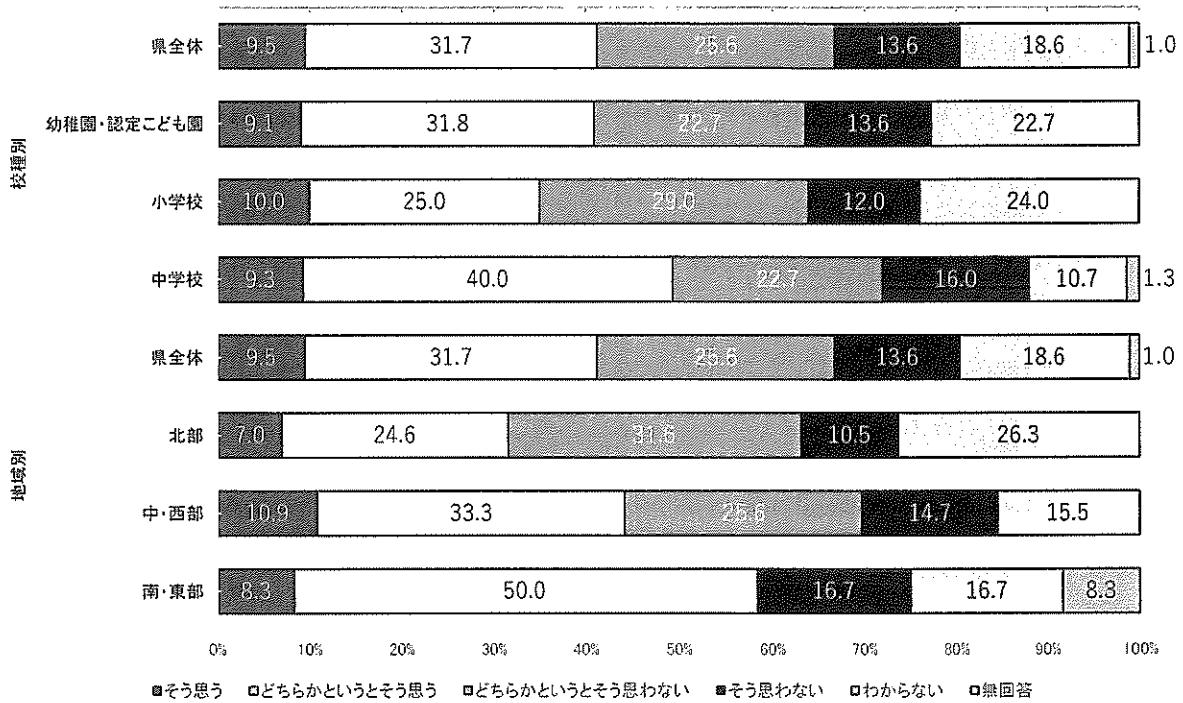
県立高等学校の今後の在り方に関するアンケート結果(奈良県PTA協議会会員対象)

- (1) お子さんが中学3年生になり高等学校等に進学する際、学びたいことや取り組みたいことをもとに学校を選択できると思いますか。

○全体では肯定的な回答と否定的な回答がいずれも約40%となっている。

○中学生の保護者は、肯定的な回答が否定的な回答を上回る結果となった。進路選択の中で、目的意識を明確にする生徒が増えることが考えられる。しかし、中学生の保護者の4割近くが否定的な回答をしており、キャリア教育のさらなる充実が求められる。

○地域別では、南部・東部においては肯定的な回答が、北部においては否定的な回答がそれぞれ多い。



		回答者数	そう思う 4	どちらかという そう思う 3	どちらかという そう思わない 2	そう思わない 1	わからない 0	無回答 —
県全体		199	19 9.5	63 31.7	51 25.6	27 13.6	37 18.6	2 1.0
校種別	幼稚園 認定こども園	22	2 9.1	7 31.8	5 22.7	3 13.6	5 22.7	0 0.0
	小学校	100	10 10.0	25 25.0	29 29.0	12 12.0	24 24.0	0 0.0
	中学校	75	7 9.3	30 40.0	17 22.7	12 16.0	8 10.7	1 1.3
	無回答	2	0	1	0	0	0	1
	県全体	199	19 9.5	63 31.7	51 25.6	27 13.6	37 18.6	2 1.0
地域別	北部	57	4 7.0	14 24.6	18 31.6	6 10.5	15 26.3	0 0.0
	中・西部	129	14 10.9	43 33.3	33 25.6	19 14.7	20 15.5	0 0.0
	南・東部	12	1 8.3	6 50.0	0 0.0	2 16.7	2 16.7	1 8.3
	無回答	1	0	0	0	0	0	1

※ 上段: 回答数、下段: 回答率(%) [小数点第2位を四捨五入]

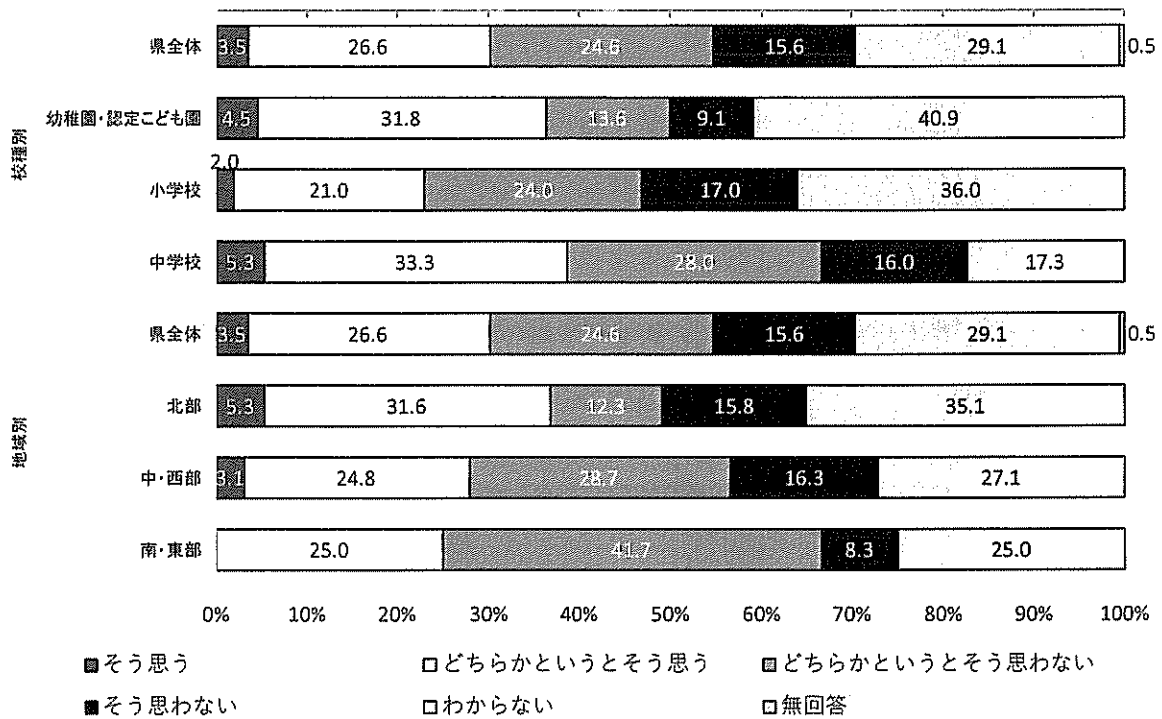
※ 複数の校種を回答している場合、中学校を含む場合は中学校として、それ以外は小学校として集計しています。

(2) 現在の県立高等学校の教育内容や学校配置は、学びたいことや取り組みたいことをもとにした学校選択に十分応えることができていると思いますか。

○全体としては、肯定的な回答が約30%、否定的な回答が約40%となっている。

○幼稚園・認定こども園、小学校、中学校の順に「分からない」と回答する割合は少なくなるが、小・中学校では、否定的な回答が肯定的な回答を上回る傾向となっており、生徒の目的意識に応える学校づくりがさらに求められる。

○地域別では、北部では肯定的な回答が否定的な回答より多い一方、中部・西部及び南部・東部では逆転しており、特に南部・東部では否定的な回答が半数を占めている。



		回答者数	そう思う 4	どちらかという と思う 3	どちらかという と思わない 2	そう思わない 1	わからない 0	無回答 -
校種別	県全体	199	7 3.5	53 26.6	49 24.6	31 15.6	58 29.1	1 0.5
	幼稚園 認定こども園	22	1 4.5	7 31.8	3 13.6	2 9.1	9 40.9	0 0.0
	小学校	100	2 2.0	21 21.0	24 24.0	17 17.0	36 36.0	0 0.0
	中学校	75	4 5.3	25 33.3	21 28.0	12 16.0	13 17.3	0 0.0
	無回答	2	0	0	1	0	0	1
地域別	県全体	199	7 3.5	53 26.6	49 24.6	31 15.6	58 29.1	1 0.5
	北部	57	3 5.3	18 31.6	7 12.3	9 15.8	20 35.1	0 0.0
	中・西部	129	4 3.1	32 24.8	37 28.7	21 16.3	35 27.1	0 0.0
	南・東部	12	0 0.0	3 25.0	5 41.7	1 8.3	3 25.0	0 0.0
	無回答	1	0	0	0	0	0	1

※ 上段：回答数、下段：回答率(%) [小数点第2位を四捨五入]

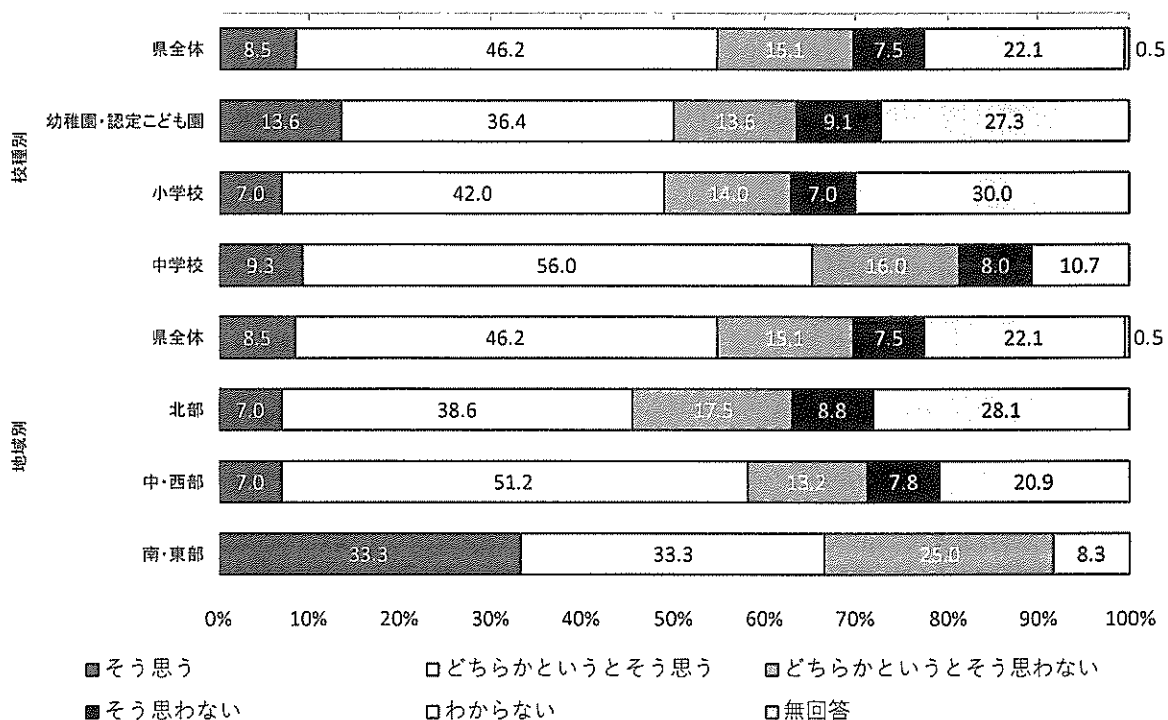
※ 複数の校種を回答している場合、中学校を含む場合は中学校として、それ以外は小学校として集計しています。

(3) それぞれの県立高等学校の教育内容に関する情報は、容易に入手できると思いますか。
(ホームページ、学校紹介冊子、オープンスクール等)

○全体としては、約55%の保護者が肯定的な回答をしている。

○中学生の保護者については、他の校種の保護者より肯定的な回答をする割合が増加するものの、24%が否定的に回答している現状を踏まえ、広報の在り方を検討する必要がある。

○地域別では、南部・東部において、肯定的な回答が多い。



		回答者数	そう思う 4	どちらかという そう思う 3	どちらかという そう思わない 2	そう思わない 1	わからない 0	無回答 -
校種別	県全体	199	17 8.5	92 46.2	30 15.1	15 7.5	44 22.1	1 0.5
	幼稚園・認定こども園	22	3 13.6	8 36.4	3 13.6	2 9.1	6 27.3	0 0.0
	小学校	100	7 7.0	42 42.0	14 14.0	7 7.0	30 30.0	0 0.0
	中学校	75	7 9.3	42 56.0	12 16.0	6 8.0	8 10.7	0 0.0
	無回答	2	0	0	1	0	0	1
地域別	県全体	199	17 8.5	92 46.2	30 15.1	15 7.5	44 22.1	1 0.5
	北部	57	4 7.0	22 38.6	10 17.5	5 8.8	16 28.1	0 0.0
	中・西部	129	9 7.0	66 51.2	17 13.2	10 7.8	27 20.9	0 0.0
	南・東部	12	4 33.3	4 33.3	3 25.0	0 0.0	1 8.3	0 0.0
	無回答	1	0	0	0	0	0	1

※ 上段: 回答数、下段: 回答率(%) [小数点第2位を四捨五入]

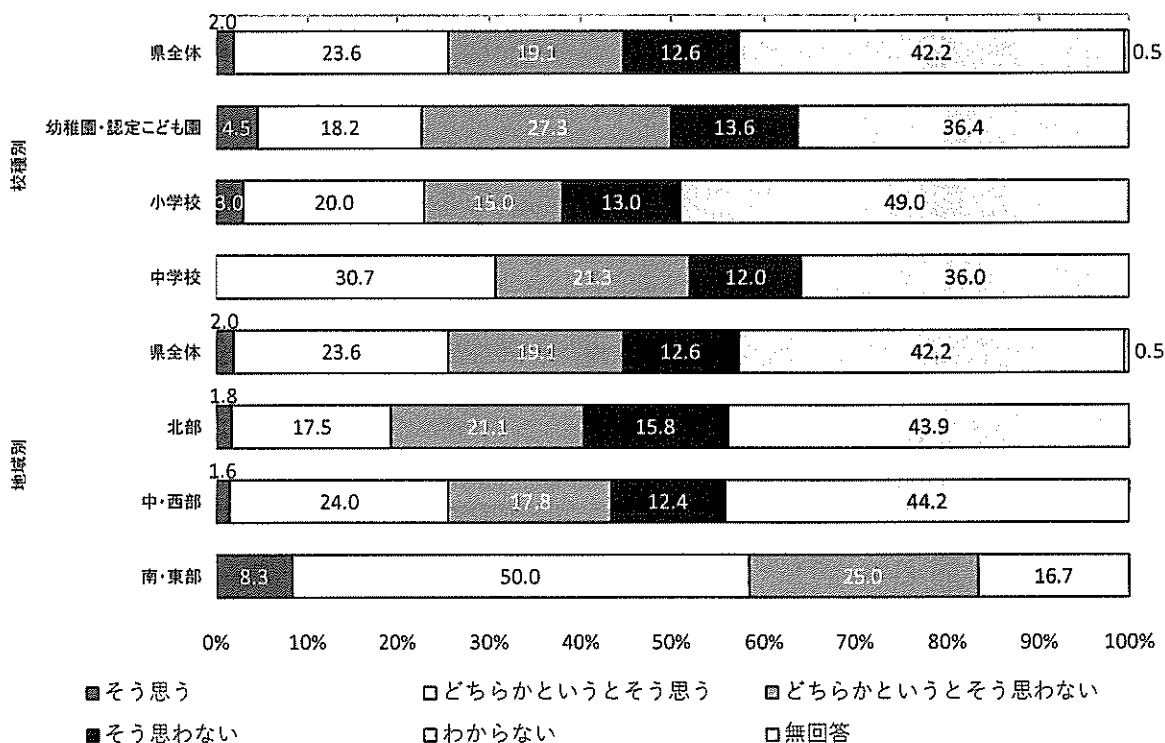
※ 複数の校種を回答している場合、中学校を含む場合は中学校として、それ以外は小学校として集計しています。

(4) 農業・工業・商業に関する学科など高等学校の専門学科は、卒業後の進路に関して、就職だけでなく、大学等への進学にも十分対応できていると思いますか。

○全体としては、40%を超える保護者が「わからない」と回答している。

○中学生の保護者について見てみると、36%が「わからない」と答え、また、約33%の保護者が否定的な回答をしている。このことから、約7割が、高等学校の専門学科が進学にも対応できるという認識をもっていないことを示している。

○地域別では、南部・東部においては過半数の保護者が肯定的な回答をしており、他の地域と異なる傾向を示している。



	回答者数	そう思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	そう思わない	わからない	無回答	
		4	3	2	1	0	—	
県全体	199	4	47	38	25	84	1	
		2.0	23.6	19.1	12.6	42.2	0.5	
校種別	幼稚園 認定こども園	22	1	4	6	3	8	0
			4.5	18.2	27.3	13.6	36.4	0.0
	小学校	100	3	20	15	13	49	0
			3.0	20.0	15.0	13.0	49.0	0.0
	中学校	75	0	23	16	9	27	0
		0.0	30.7	21.3	12.0	36.0	0.0	
無回答	2	0	0	1	0	0	1	
県全体	199	4	47	38	25	84	1	
		2.0	23.6	19.1	12.6	42.2	0.5	
地域別	北部	57	1	10	12	9	25	0
			1.8	17.5	21.1	15.8	43.9	0.0
	中・西部	129	2	31	23	16	57	0
			1.6	24.0	17.8	12.4	44.2	0.0
	南・東部	12	1	6	3	0	2	0
		8.3	50.0	25.0	0.0	16.7	0.0	
無回答	1	0	0	0	0	0	1	

※ 上段:回答数、下段:回答率(%) [小数点第2位を四捨五入]

※ 複数の校種を回答している場合、中学校を含む場合は中学校として、それ以外は小学校として集計しています。

県立高等学校の今後の在り方に関するアンケート（奈良県 PTA 協議会員対象）

（地域：校種）

○ 教育内容

- ・それぞれの高校において特色を生かして指導され、生徒は充実した学校生活を送っていると思う。（中・西部：中）
- ・専門の資格を取得でき、大学進学もできるようになっている印象である。（南・東部：小）
- ・普通科の募集人員を増やして、専門学科を置いている学校にも普通科を設置してほしい。（北部：中）
- ・工業系、特に土木系の専門学科が少ない。（中・西部：中）
- ・専門学科が少ないので、学びたいこと取り組みたいことがあってもできないことが多いのでは。（中・西部：小）
- ・専門色のある高校があれば、早くから勉強でき、良いと思う。（中・西部：小）
- ・専門学科の教育内容が中途半端なように思う。もう少し資格をとらせる等、職業に直結するような内容にしてはどうか。（北部：中）
- ・就職につながる専門的な分野の教育も希望する。（中・西部：中）
- ・大阪や京都の公立高校トップに比べて学力はずいぶん差があると思う。公立高校の教育のより一層の充実を希望します。（中・西部：中）
- ・県立高校と私立高校の教育カリキュラムの進み方に大きな差があるように思う。経済的に予備校などに通えない生徒は、学校での勉強がとても重要となる。特に、公立高校では、センター試験などに対する早期対策が必要ではないか。（特に、理科・社会など）（中・西部：中）
- ・私立高校に劣らない授業内容にして大学進学を考える上でも県立高校へと思えるように県立校もがんばって欲しい。私立の説明会等を聞くと、必死さを感じる。（中・西部：小）
- ・2020年入試の改革、社会の変化など、私立高校は早くから対応できるような教育カリキュラムを行っているが、公立高校（経済的に）にしか進学できない子供たちは、公立高校での取組がわかりにくく、不安要素となっている。（南・東部：中）
- ・「アクティブ・ラーニング」のスムーズな導入は、教職員の方々のみならず、保護者も主体性や創造性のある思考や行動を学ぶ機会にするべきと感じている。PTA活動の一環に取り入れることを検討したいと思う。（中・西部：中）
- ・卒業後の人生の在り方、また、生きていく上での学びを取り入れてほしい。（教科書に載っていないこと、良い智慧をつける、といったこと）（中・西部：中）

○ 高校選択

- ・早くから専門学科を目指すことは、将来、強みになると思う。そのことに高校が十分に対応して、専門分野での人材が育成され、奈良で活躍するという流れになればよいと思う。（中・西部：中）
- ・専門的な学科がある高校は別だと思うが、偏差値と通学のしやすさが主となって進路指導がされているように思う。（中・西部：中）
- ・長男（高校生）の進学時は、成績で学校を勧められたように思う。（中・西部：小）
- ・南部にある高等学校の魅力が十分でなく、定員割れ等によるレベルの低下が見られる。地域の方々の中でも、母校（南部地域の学校）の現状に寂しさや悲しさを感じている方も多い。学力レベルに合わせた高校選択になっていることが多い。（南・東部：小）
- ・本人の学力によって選択の幅が変わると思う。今後の高校選びとして本人の学力関係なく行きたい高校に入学できる方向になるのだろうか。（中・西部：小）
- ・子供の中では、学校選びの基準は偏差値のみで考えている部分が大半で、将来を考えてなどの選択はないように思う。もう少し、専門的な学びができる特色ある選択肢が増えたらよいと思う。（北部：中）
- ・高校を選ぶ時に、学力レベルの合った高校を選ぶのが普通となっているが、特色のある学校を選ぶ、子供

- のしたいことが明確になって、それで選ぶという進路の決め方が主流になればいいと思う。(中・西部：中)
- ・進学するときには学びたいことや取り組みたいことをもとに学校選択できればいいと思う。(中・西部：小)
- ・自分の時は勉強の出来次第で行く高校を選ぶしかなかったですが、子供の時はそれだけでなく将来のことも見据えて、その情報も親子で手に入れることができ、高校を選ぶことができたらいいと思う。(中・西部：小)
- ・高校の体制を整えても、子供にそれを選択する力がないと意味がないと思うので、中学校・小学校の時から、自分の将来ややりたいこと、得意なこと、好きなことを見付けられるように、家庭でも学校教育でも取り組んでいくべき。(中・西部：幼・こ)
- ・農業・工業・商業高校に目的意識をもって進学する生徒が少ないのが問題と思う。実業学校＝成績が良くないという固定イメージがまだあるのではないか。(北部：小)
- ・長女(高校生)の進学時は、自分の学力に合うレベルで選択しているので学びたいことや行きたい方面には進んでいない。逆に、中3で細かく選択するのは難しい。普通科の人数が年々減っているのが困った。(中・西部：中)
- ・中学生が将来のことを選ぶには、経験が少なすぎると思う。(中・西部：中)
- ・長い人生の選択の第一歩となる進路に専門性を求めるのは難しいと思う。基礎教育、一般教養と学ぶ期間に、何かを見付けるといふ時間が大切だと思う。専門選択後に再選択が出来れば多少のフォローになるとも思う。(中・西部：小)
- ・小学校高学年には中学のことばかりではなく、その先(高校・大学・就職・)を知る機会や自分たちの将来について考える機会があれば、よいのではないか。(中・西部：小)
- ・(自分の経験としては、)高校のことについて先生も分かっていないことも多く、先生に聞くより自分で調べて高校を選んだ。大学への進学も同じであった。(中・西部：小)

○ 情報発信

- ・県の取組、情報発信が分かりにくい。適正配置や学校の授業内容・カリキュラムを検討するのは人口の減少と共にわかるが、校風やカリキュラムが分かるように、学校紹介があって欲しい。(中・西部：中)
- ・高校の情報入手する手段が分からない。現在又将来どの様なビジョンをもって教育していくのか知りたい。もっとオープンな議論をお願いしたい。(中・西部：小)
- ・親の世代とは合併などで高校名が変わったり、廃校となっていたりする場合があるので、小学6年ぐらいで、県内高校の一覧のようなものを配布してもらいたい。(中・西部：小)
- ・高校進学を決めるぎりぎりではなく早い段階で詳しいことがわかるような場があれば嬉しい。誰もが情報を入手しやすく、早い段階から興味をもてるような機会があればいいと思う。(北部：小)
- ・県外から奈良県に来て子育てをしていると、県立高校の事情は分かりにくい。各校の特色や高校の場所なども親がもっと知る機会があればと思う。(北部：小)
- ・受験生(3年生)にだけでなく、1・2年生にも情報を発信してほしい。(中・西部：中)
- ・子供が小さくまだ分からないことが多いが、高校進学する際には、ホームページ、学校紹介冊子などが充実していることを願う。(中・西部：幼・こ)
- ・子供たちにとっては、それぞれの学校の魅力などはその学校へ通っている先輩方から教えてもらおうと響きやすいのではないかと。例えば、高校生が母校へ行って宣伝するようなことがあれば面白いし、興味をもてると思う。(北部：小)
- ・通っている中学ではオープンスクールの一覧表を1年生から配っているが、同じ市の他校では配られていないなど統一されていない。特色のある高校で具体的にどんな授業をするのか、その先、どんな進路に進んでいるのかも、早い段階(1年生)で知ることができる機会をつくってほしい。塾の方を信用して、学校の先生の話を聞かないということにならないように、塾で知るのでなく、中学の先生から聞かせてほしい。(中・西部：中)

- ・HPにオープンキャンパスの一覧表があれば、見やすく、日時も併せやすくなるのではないか。(中・西部：小)
- ・娘が中1ということもあるが、高校の情報・特徴を知る機会が少ない。特色ある学科の教育内容の成果はどのようなものか知りたい。例えば、A校の英語コースにA校より学力の高い学校に行ける生徒があえて行くような魅力的なコースになっているかどうかなど。(中・西部；中)
- ・小学校と高等学校の関わりが少ないので、もっと「この学校はものづくりが得意」「この学校は英語の勉強に興味ある子にぴったり！」など、小学生のうちに高校の魅力を伝えるのもよいのではと思う。そういうことがあれば、中学校3年間勉強がんばってあの高校に行きたいという子供たちが増えるのではないか。(中・西部：小)
- ・今はホームページ等があるので、教育内容に関する情報は容易に入手できると思う。そのためにも、各高等学校は様々な情報をホームページ等に詳しく載せてほしいと思う。そのことが子供たちの自由な学校選択につながると思う。(中・西部：幼・こ)
- ・高等学校の実質的な日常(授業、部活動等)は、なかなか伝わりづらく、入学してから雰囲気になじめないこともあるのでは。(中・西部：中)

○ 教育環境

- ・校舎の老朽化がかなり進んだ学校や耐震すら終わっていない県立高校がある。教育内容も大切だが、まずは子供たち、保護者が安心して学習できる環境づくりを優先してもよいのでは。大規模災害が起こった際の子供たちの生命の安全を第一に考えてほしい。(北部：中)
- ・世界的な異常気候の昨今、夏は異常な暑さの日もある。甘やかすとかではなく健康に支障をきたす恐れもある。県内公立高校にエアコンを完全設置してほしい。(中・西部：小)
- ・県南部には高校が無く、寄宿舎に入らざるを得ない。子供が希望する高校への進学への妨げとならないよう寄宿舎の充実を図ってほしい。(南・東部：小)

○ 学校配置

- ・現存する高校が廃止されることがないようにしてほしい。高校内の改革等で今後のニーズやビジョンに対応できる方向を探してほしい。(中・西部：中)
- ・南部地域における高等学校への進学は、通学を考慮しなければならないのが現状。(南・東部：小)

○ その他

- ・高等学校に向けて中学校が全体的に塾に行って当たり前で進んでいる様で、塾に行けない子供などがおいていかれている様子に不安になる。家庭的、金銭的に難しい人への対応も増えれば希望高等学校(進路)も変わってくると思う。(中・西部：小)
- ・不登校や学力低下などを理由に県立高校への進学が難しいことや、遠距離の通学などで費用がかかることにより親の負担は大きい。学費の補助、県立高校の副教科対応などあれば進学しやすいか考える。(中・西部：中)
- ・高校受験にあたり、中学校での勉強をもっとしっかりしてほしい。塾に通えない家庭事情もあるので、それで行きたい高校に進めなくなるのは困る。(中・西部：小)
- ・まずは中学校教育をもっとしっかりしないといけない。(南・東部：小)
- ・早い段階で文系・理系の選択も情報が少なく自分で調べていかないといけない。(中・西部：中)
- ・公立の高等学校へ進学する場合、第2志望の高校まで選択できるようになるとよいと思う。(中・西部：中)
- ・スクールカウンセラー制度も充実していると思うが、生徒も保護者も気軽に利用できる形にしてほしい。

(中・西部：中)

- ・以前より高等学校も統廃合されているが、それにより高等学校の質がどうなっているのか疑問。荒れている学校もあると聞く。(中・西部：小)
- ・先生を減らすことも良いが、もっと子供目線で考えてほしい。(中・西部：小)
- ・高校卒業後、大学へ行くなら、塾に通わないといけないと思う。高校で国家試験に合格できる程の学力をつけることも不可能ではないと思う。大学後、結婚・出産をすると、子供の修業する時間が短すぎる。高齢出産は、少子化へと進めてしまう。(中・西部：小)

(注)

- ※ アンケートの自由記述欄を項目毎に整理しました。
- ※ 同種の意見はまとめているものもあります。
- ※ 表現を揃えるために、例えば具体的な校名は「A校」とするなど、表記を変更しています。